

令和4年度第1回坂井市子ども・子育て会議 議事概要

日時	令和4年7月27日（水） 午後7時～
場所	坂井健康センター1階ホール
出席者	委員：石川会長、武田副会長、前沢委員、山岸委員、小林(佳)委員、中嶋委員、伊東委員、橋本委員、小林(真)委員、片山委員、中澤委員 事務局：井上次長、栗原課長、佐藤課長、浦課長、豊田参事、結城参事、丸谷課長補佐、竜田参事、矢尾参事
欠席者	委員2名、事務局1名
議題	(1) 令和3年度「坂井市子ども・子育て支援事業計画」の進捗状況について
報告事項	(1) 今後の会議日程
資料	資料 坂井市子ども・子育て会議委員名簿 資料1 坂井市子ども・子育て会議の役割 資料1付属 坂井市子ども・子育て会議条例、坂井市子ども・子育て会議条例施行規則、子ども・子育て支援法（抜粋） 資料2-1 令和3年度坂井市子ども・子育て支援事業計画 進捗状況結果一覧 資料2-2 令和3年度坂井市子ども・子育て支援事業計画 点検・評価表（施策）C・D 評価抽出 資料2-3 令和3年度坂井市子ども・子育て支援事業計画 点検・評価表（施策）および令和4年度事業計画 資料2-4 令和3年度坂井市子ども・子育て支援事業計画 点検・評価表（教育・保育、地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保の内容） 冊子1 第2期坂井市子ども・子育て支援事業計画 冊子1付属 第2期坂井市子ども・子育て支援事業計画（概要版）

1. 開 会

2. 委嘱書交付

3. 健康福祉部長あいさつ

4. 委員・事務局職員紹介

5. 子ども・子育て会議の役割について

<資料1、資料1付属>

【事務局より説明】

6. 会長・副会長の選出について

【会長】

出席委員数の確認。13名のうち2名欠席。過半数以上の出席のため会議を開催。傍聴人なし。

## 7. 議題

(1) 令和3年度「坂井市子ども・子育て支援事業計画」の進捗状況について

＜資料2-1、資料2-2、資料2-3、資料2-4＞

### 【事務局より説明】

#### 【会長】

ただいまは、令和3年度の進捗状況の説明をいただいた。138の施策があり、それぞれ担当している課が横断的に、全庁あげて子ども・子育て支援事業に取り組まれている。

コロナ禍の影響を受け、予定していた事業ができなかったところもあり、評価としてはCが付いたり、Dが付いたりしたところもある。やむを得ないことかなと思うけれども、よく取り組まれているなということが私の受け止め方である。委員の皆様方からもご質問やご意見をいただきたい。

#### 【委員】

資料の2-4で進捗状況関連の説明をいただいた。量の見込みとか確保の内容は、全体の数値としては確保できているということだったが、実は坂井市は結構広く、地域の差が相当出てきているのではないかと感じている。保育園は小学校区につながっていくので、小学校区単位ぐらいで細かい計画というのが必要なのではないか。

また、5年先・10年先の未来が見越せない、保育園の運営においても十分なサービスをしていけないと思う。保育園と行政が、今まで以上に綿密な連携を取っていけるような体制が望まれると思う。

#### 【事務局】

現在の第2期子ども・子育て支援事業計画においては、教育・保育の提供区域を1圏域、坂井市全部を一つの圏域として、計画を立てている。

委員からご意見があったとおり、春江小学校区では、ここ数年、子どもの数が増えていっているという状況である。仮に小学校区とした場合、校区数が多いことや、人口がすごく減少しているところの施設をどうするかといった問題も出てくるため、なかなか難しいのかなと思う。

引き続き、人口動向等をきめ細かく把握しながら、面積・人員配置等を調整して弾力的かつ効果的に資源を活用できるよう検討するが、圏域については、次の計画の策定のときに、また委員の皆様の意見をお聞きして考えたい。

5年先・10年先の未来というのは、なかなか見通せない状況である。市として、長期的には人口ビジョンを出しているが、コロナ禍において、子どもの生まれる数は減ってもいるし増えてもいるので、未来を見越した運営はなかなか難しいと思う。民間保育園の方ともいろいろ情報共有しながら対応していきたい。

#### 【委員】

保護者の立場として、まず、こんなにたくさん事業を坂井市でされているということを知らなかった。本当は利用したいけれども、情報として知らなかったから利用できなかったという事

業も少なからずあると思う。そういった保護者へのアプローチ、情報提供はどのようにされているのか。

#### 【事務局】

対象者の方に個別で通知を出しているときはもちろんあるが、一般的には、市のホームページに情報を載せたり、広報さかいに情報を載せたりしている。対象となる方にはなるべく直接の通知を出して、お知らせをしているが、世の中ではDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進していこうということなので、デジタル技術も活用しながら、できる限りのお知らせをしていきたい。

#### 【委員】

コロナ禍になってからは、保育園を開放したり、保護者との行事・計画を立てたりするのもなかなか難しい。保護者の方は園の様子を少しでも知りたいだろうと思うので、例年よりも短い時間で保育参観するとか、日にちを分散して保育参観するなど、いろいろ工夫しているところがある。

#### 【会長】

市のほうでは、ICTの活用は進んでいるのかな。ICTを活用して保護者の皆さんにお伝えすることができる、また変わってくると思うがどうだろう。

#### 【事務局】

公立園では、令和2年度から3年度にかけて、全ての常勤保育士にタブレットを配備し、アプリを入れてICT化している。まだ整備が終わったばかりであるので、今後、どこかの園に実証をお願いしながら、業務の効率化を進めていきたい。

#### 【委員】

坂井の子育て支援センターでは、子育てサークルへの支援ということで、サークル活動をお母さん方で自主的に行ってくださっているが、保育園などでの途中入園の方が多いためか、年間通して活動できる方が少なくなっている。回数を減らしたり、お母さんの負担がかからず楽しめるような感じで工夫したりしているけれども、活動期間を半年で分けるなどサークルの持ち方を考える必要があるのかなと思う。

#### 【会長】

そういうところにも、コロナの影響が出ているのだろうね。

#### 【会長】

私から一つ、法律のことになるが、医療的ケア児およびその家族の支援の法律が成立をした。そのようなお子さんの保育、もちろん1号認定の利用も含めてということになるが、医療的ケア児からの教育・保育の要請があった場合の対応ということについては考えていかなければいけないし、これから増えてくるのではないかと思う。これからの看護師の確保ということも含めて、体制は考えていかなければいけないなと思っている。

### 【事務局】

医療的ケア児については、現在、本市では公立園で1名、私立園で1名、計2名の方の受け入れを行っているが、切実な問題として、受け入れる場合は、受け入れ側の施設であったり看護師の配置であったり、整備を行いつつ受け入れていかなければいけないということがある。

市としては重層的支援体制整備事業として、いち早くそういったご家庭の状況を把握し、保護者のお話を伺いながら、なるべく早い時期に、保護者の要望に添えるよう施設の整備や看護師の確保に取り組むということをさせていただいている。1人でも多く、受け入れていきたいという思いはあるが、来ることを見込んで先々に整備するということは現状、なかなか難しい。

### 【会長】

そのお子さん方は、今度は小学校に入っていく。小学校に行くのか、病態によっては特別支援学校になるかと思うけれども、所管課が変わってくるので、福祉部局と教育委員会との連携ということも大変大事になってくる。そのあたりも含めて、ご対応いただければと思っている。

## 8. その他

### (1) 今後の会議日程

#### 【事務局より説明】

### (2) 意見等

#### 【委員】

子どもが家庭や地域の中で明るくのびのびと生きる、これが理想の社会だろうと思うけれど、実際には新聞でも時々、驚くような事件の記事が出る。子育ては非常に大変だと思う。それで、施策を作っても、それを実施する上でマンパワーが大事ではないかと思う。計画が実際に役立つように、よろしく願いたい。

#### 【委員】

自分の子どもは大きくなってしまったが、今、保育園や子育て支援の現場の方々のご意見を聞いたり現状を聞いたりして、大変、心に響いた。また、資料を読ませていただき、私の中でいろいろな考えをこれから作っていききたい。

#### 【委員】

あらかじめ会議資料を読んで来たけれども、まだ、こなしきれない自分がいる。また、皆さんのご意見を頂戴しながら一緒に考えていきたい。

#### 【委員】

自分が仕事として携わっている事業なども振り返りながら、今年度の計画について、再検討していくところもあるし、会長のご意見にもあった医療的ケア児などは、いろいろな担当課、子どもに係る担当課の連携は一層重要になってくるということを確認できた。

資料の中で自分が把握していないことが多かったので、しっかり読み込んで、また、事業を利用していきたいとも思うので、アピールもしていただきたい。

**【委員】**

医療的ケア児への対応ということで、個人的には、発達障がいがある子どもも少なからずいると思うので、早期のサポートが必要だと考えているが、坂井市はこれからどうしていくのかなというところも、今後の会議の中で伺いたい。

**【委員】**

私が勤めている職場は、保育園に入る前のお子さまばかりが来る場所なので、そういった保護者の方、お子さまの様子など、今後、こちらの場をお借りして発言させていただきたい。

**【委員】**

子育て支援センターとして相談ごとなどを受けている中で、市の栄養士の方とか保健師の方にもお願いしているので、計画の内容をよく把握しながらやっていけたらいいなと思っている。

**【委員】**

保育園では0歳児から5歳児まで利用しているが、保護者の方は、それぞれ仕事をしながら、お子さまを預けてくださっている。安心して子どもを預けていただけるように、園としてもできることをしていきたいと思う。

**【副会長】**

民間保育園全体の意見について、ある程度まとめながらこの会議でお伝えし、市の方針の中で取り上げていただけたらと思う。皆さんと協力しながら、坂井市のお子さんのためにがんばっていききたい。

**【会長】**

いろいろな課題が出てくるかと思う。特効薬みたいなものはないが、この坂井市の掲げているスローガンである「笑顔」が、お家の中でも子どもでも、地域の中でも溢れるようなまちにしていこうという思いの中で、いろいろな提案が出てくると思う。よい提案についてはどんどん実現していくというような流れを作ることができればいいかなと思っている。

2年以上にわたるコロナ禍の中で、保護者の皆さんの生活も、相当変わってしまったというか、苦しい家計状況に追い込まれたところもあるのではないかな。そうした影響は、子どもとか高齢者とか、障がいがある人とか、弱いところにどうしても行ってしまう。それを極力避けるといった手立ても必要なのではないかな。ぜひ、そうした情報をお寄せいただき、施策に反映することができればと思っているので、ご協力をお願いしたい。

**9. 副会長あいさつ**

**【副会長あいさつ】**

**10. 閉会**